

4号機 調整運転の状況について(余熱除去系の弁の点検について)

平成 18 年 6 月 26 日

浜岡原子力発電所4号機は、6月24日午前9時00分に原子炉を起動し調整運転を開始しました。

その後、原子炉で発生した蒸気を用いた機器の点検を実施してきており、6月25日午後には、計画に従い、原子炉圧力、炉水温度を通常運転中と同等の状態(ただし、原子炉は未臨界(※1)の状態)で、原子炉格納容器内の機器を点検しました。

この点検の中で、余熱除去系(※2)低圧注入第1隔離弁(C)のグランドパッキン(※3)の押さえ板が、機能上問題ないものの若干傾いていることを確認しました。当該箇所からの蒸気の漏れは認められないものの、取付け状態をより適正にするため、グランドパッキン入れ替え等の点検・調整を実施することとしました。

このため、6月26日午前0時49分に原子炉を停止しました。

点検・調整の実施にあたっては、原子炉停止状態のまま原子炉圧力を大気圧まで低下させた上で実施します。

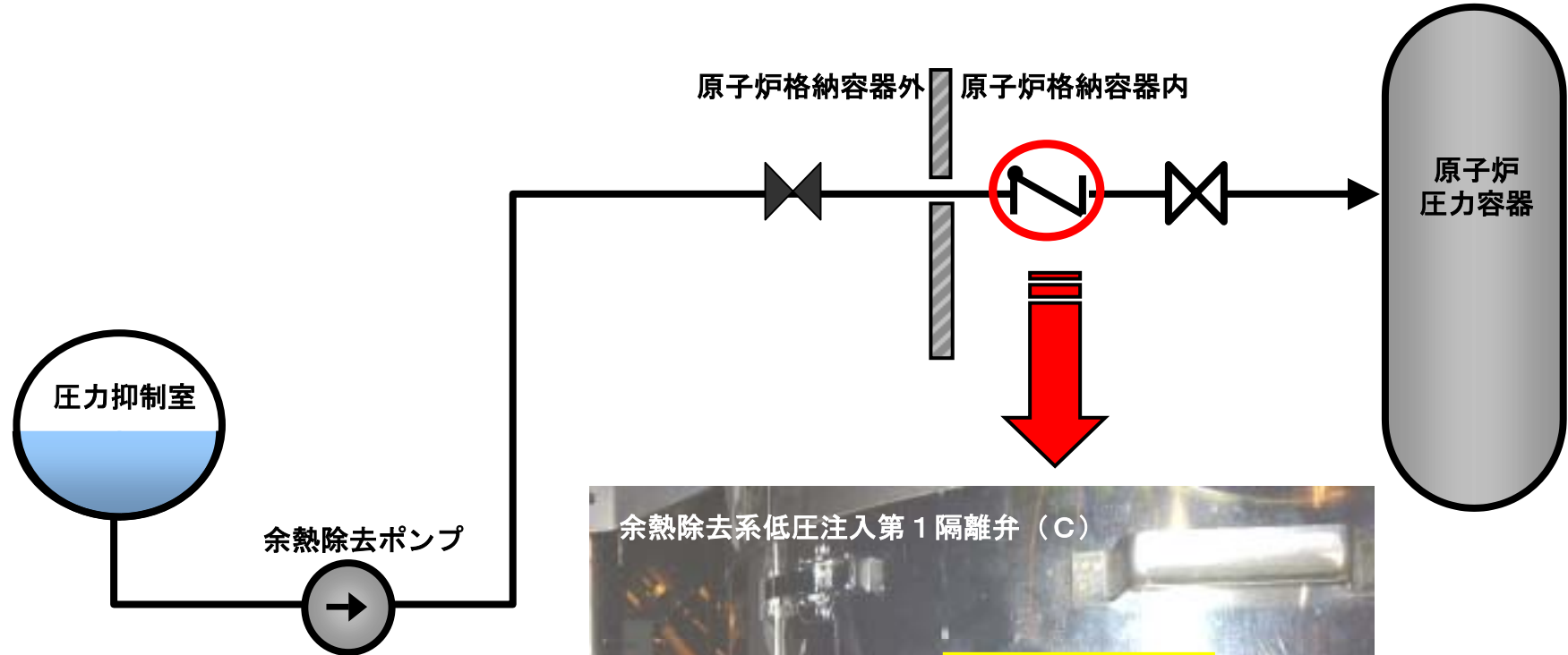
点検・調整実施後、再び原子炉を起動して原子炉圧力を上昇させ、調整運転中に実施する予定の項目について引き続き確認を実施していきます。

なお、今回の事象による弁からの蒸気の漏えいはなく、外部への放射能の影響はありません。

- (※1)ウラン235の核分裂で放出された中性子のうち1個が次のウラン235にあたって核分裂をおこし、中性子が増えもせず減りもせず、核分裂が維持される状態を臨界といいます。未臨界は、中性子が減り続け、核分裂を維持できない状態をいいます。
- (※2)余熱除去系低圧注入は、原子炉の圧力が下がった状態で原子炉の水位が低下した場合に、サプレッションプールの水を原子炉に注入する系統です。
- (※3)グランドパッキンは、弁箱の弁棒貫通部に取付けられ、弁内部の流体が漏えいしないようシールするためのパッキン。

以 上

浜岡 4 号機 余熱除去系低圧注入第 1 隔離弁 (C) 概略図



今後、グランドパッキンの入れ替え等の
点検・調整を実施します。